

第2学年 体育科学習指導案

平成19年 月 日 () 限

指導者

場 所 体育館

1 単元名 「ボール投げゲーム」 ～ドッジボールを楽しもう～

2 単元の目標

- ・ルールを守り、勝敗を素直に認め、みんなと仲良くゲームを楽しもうとする。
(関心・意欲・態度)
- ・ゲームを楽しむための簡単なルールを工夫することができる。
(思考・判断)
- ・ボールを捕ったり、パスをしたり、投げ当てたりしてゲームをすることができる。(技能)

3 指導にあたって

(1) 教材について

ドッジボールは、手軽にできて子どもたちが大好きなスポーツである。ゲームに勝つために、集団としてのまとまりや力を合わせて相手チームと競争する意識を高めることができる。また、相手チームに勝つことも楽しいが、強いボールを捕ったときや相手に当てたときなどに、個人としての楽しさも増す運動である。

また、教材の特性として、ボールの投捕能力は個人差が大きく運動技能の差が大きく影響するゲームであり、全員参加による達成感・満足感を味わえるルールを工夫することができるゲームである。そのため、技能の高い子だけが活躍するのではなく、みんなが参加できることが楽しいと思う気持ちを育て、みんなが楽しめる適切なルールを工夫していきたい。

(2) 児童について

女子7名、男子9名の計16名で、昨年度の新体力テストでは全体的に能力が高く、活発な学年である。休み時間には、男子はドッジボールや遊具、女子は一輪車で遊んでいる子が多い。男女ともに鉄棒を楽しんでいる子も見られる。ほとんどが2・3人位の少人数で遊んでいる。

体育学習では、固定施設・鉄棒遊び、リレー遊び、跳び遊びや平均台遊びなどを行ってきた。いずれの学習にも意欲的に取り組み、チームで行ったリレーなどでは、障害を工夫したり、励ましあったりする姿が見られた。ドッジボールは、大好きな児童も多いが、男女の技能の差が激しくて女子の中にはボールを怖がる児童もいる。白熱してくると判定をめぐる争いになるものだが、そういう姿はあまり見られなかった。

今年度も、昨年に引き続き、「スポチャレいしかわ」に取り組んでいるが、シャトルボールはボール扱い自体がぎこちなく、他の2種目に比べ苦手である。

そこで、いろいろな型のドッジボールを工夫して行い、ゲームを通して技能向上とボールに向かっていく気持ちを育てたい。みんながゲームをする楽しさも味わわせたいと考えている。

(3) 指導について

ドッジボールは、「投げる・捕る・よける」の3つの運動が主である。子どもたちの様子を見ていると、ボールを捕れた時の喜びは大きく、ボールを捕れるようになりたいと思っている児童が多い。ボールをよけて逃げてばかりいて最後まで当てられずに残っても、満足感や投捕能力の向上はあまり無く、ボールを怖がる気持ちも無くならない。捕ってはじめて投げることができるのである。例え当たってもボールに向かっていって捕ろうという気持ちを育てたい。また、強い球を投げる児童の中には、ただやみくもに投げつけているだけという姿が見られるので、3年生からのバスケットボール型ゲームにつなげるという意味で、味方にコントロールよくパスするといった意識や動きも身につけさせたいと考える。そこでゲームは、当たっても外野に行かなくて良い得点制のルールとし、男女混合を基本として能力差があっても一緒に楽しめるものにしていきたい。

ゲームを行う前に、コーディネーション運動でこれらに必要な定位能力・変換能力・反応能力・連結能力・識別能力を高めていきたい。

4つの生活班や赤・白の2チームに分かれてゲームを中心に行い、運動量を確保して基礎体力や運動能力の向上を目指したい。友達のがんばりや良いプレーを認め、良い声かけをしあうことをひろめて仲間意識を育てたい。また、低学年であるので、音楽や手作りの道具・ルール等の工夫で楽しく身につくように留意していきたい。

(4) 研究の視点

今年度も研究主題「心ゆたかで たくましい勅使っ子の育成」のもと、児童のライフスタイルの向上に取り組んでいる。本単元で、リズムカルに体を動かしたり、みんなで思いっきりゲームを楽しんだりすることで、将来にわたって運動に親しんでいこうとする態度の育成につなげられたらと考えている。そのために授業では、運動を楽しむための体力や技能の向上と、楽しかった・たくさん動いたという満足感を味わわせたいと考える。コーディネーション運動やゲームを中心に行い、運動量の確保・基礎体力の向上・運動能力の向上を目指すとともに、友達のがんばりに良い声かけをし合って仲間意識を育てていきたい。

4 単元計画・評価計画（総時数 6時間）

時	学習活動		評価規準〔評価方法〕		
	ねらいと活動		運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいと進め方を知る。 ・グルーピングと役割分担をする。 1班,3班…赤組 2班,4班…白組 ・自分の目標を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しいゲームをしようとする気持ちを持つ。 〔発言、行動観察〕 		
2	広さの同じコートで得点制のゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーション運動をする。 ・得点制のドッジボールをする。 ①赤組 対 白組 ・パスや的当ての練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試合の方法を理解して、積極的にゲームに参加しようとしている。 〔発言、行動観察〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが、より楽しめるように、ルールについて考えることができる。 〔発言、行動観察〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを捕ったり相手に当たったりすることができる。 〔行動観察〕
3		<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーション運動をする。 ・得点制のドッジボールをする。 ②男子 対 女子 ・パスや的当ての練習をする。 			
4	広さの違うコートでゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーション運動をする。 ・パスや的当ての練習をする。 ・広さの違うコートで得点制のゲームをする。 ③赤組 対 白組 コートチェンジして2試合行う。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを捕ったり、味方にパスしたり、相手に当たったりすることができる。 〔行動観察、発言 学習カード〕
5					
6	ドッジボール大会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ドッジボール大会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の努力や良いプレーに声をかけ合い、認めることができる。 〔発言、行動観察〕 		

5 本時の学習 (5/6)


(1) 本時のねらい

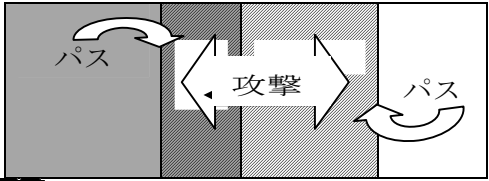
ボールを捕ったり、味方にうまくパスしたり、投げ当てたりしてゲームをすることができる。(技能)


(2) 準備

教師：ボール(4こ)、タイマー、得点板、ラジカセ、マーカーコーン、めあて表
 児童：マイチェアー、的当て(班で)

(3) 展開


配時	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価(◎)
15	1. 準備運動をする。	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの好きな音楽に合わせて体を動かし、心と体をほぐす。 • 楽しく体を動かし、ドッジボールに必要な運動感覚を高める。 • 自作の教具(牛乳パックのマイチェアー、ダンボールの的当て)で意欲化する。 • 得点制で前衛・後衛ありの広さの違うコートでの試合をすることを告げる。 (別紙 ③のゲーム) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>みんなが参加できると楽しい試合になるね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>前衛・後衛それぞれがどうしたら勝てるかな。すぐ攻撃できる場所でパスをうけよう。</p> </div>
5	2. コーディネーション運動をする。 ・ミラーラン ・ジャンプでポン ・鬼ごっこ ・的当て練習 など	
5	3. 本時のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ボールを捕ったり、味方にうまくパスしたり、投げ当てたりして、ゲームを楽しもう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> • ルールの確認をする。 • 自分のめあてを確認する。 	
20	4. ドッジボールのゲームを楽しむ。 ・赤組対白組で行う。 ・チェンジコートして6分ゲームを2試合行う。	
5	5. 本時のふりかえりと次時の予告をする。	





コートが広いので怖がらずにボールをとってみよう。楽しい試合にしたいな。

いろいろなボールが投げられる様になりたいな。



評価規準：ボールを捕ったり、パスしたり、投げ当てたりできる。(行動観察)

Aと判断される児童の状況

- ノーバウンドで捕ったり、ボールをコントロールよく投げたり、当てたりすることができる。

Cと判断される児童への対応

- 試合中に誉める、励ます。
- 次時に投捕の個人練習をする。